

Final Presentation

Mei, Shodai, Judy



Outcome 1

子どもによって日本語のクラスの受け取り方が違うことを学んだ

例：子どもに意見を求めた時に、個性豊かで興味深い

- 折り紙などの日本の遊びに子どもたちは気に入って楽しんだ
- SDGsの授業を通して食糧廃棄や食料の確保の話をした

→ 私たちは好きな時にご飯を食べられる良い環境にいることを認識し、そうではない人もいることを知った

→ 子どもたちは、そのような人は自分たちより恵まれていないだけで、助けが必要なのだと気づき、困っている人たちを助けたいと述べていた。

Outcome2

問題を起こす生徒であっても、参加したい生徒には全員参加させようとするPYスタッフの姿勢を学んだ

例: クラスに問題を起こす生徒がいて、私たちはクラスから生徒を外せないか相談したが

CPYスタッフの対応は...

- 私たちの提案を拒んだ
- 「生徒はここで彼らが学びたいものを学ぶ権利がある」

→生徒に平等な権利を与えようとする姿勢を学んだ

また、その子の対応について次のようなアドバイスももらった

- 悪いことをしたら外に出て気を休ませて、落ち着いたら戻ってくるように伝える

→その後、そのアドバイス通りにしたら、状況はよくなった

Outcome3

- 授業の最初に授業の目的を子どもたちに伝える

例) 折り紙がどのように日本の子どもたちに楽しまれているか/日本の祝日の持つ意味 など

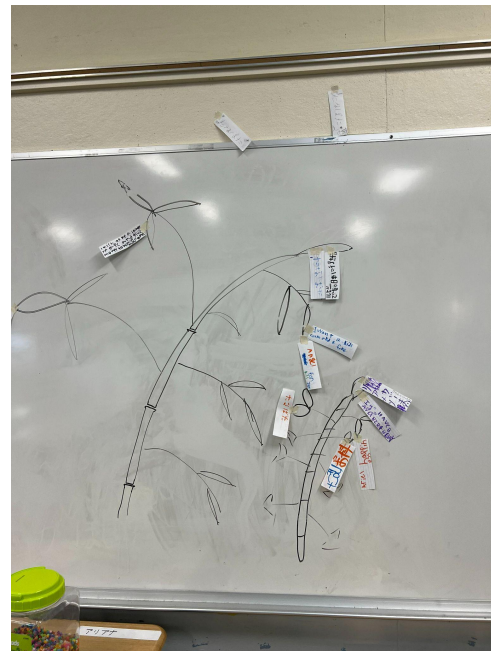
- 日本文化を口頭で教えるだけでなく、実際に体験してもらえるようなアクティビティを考える

例) 折り紙を実際に折ってみる/七夕の短冊を書いてみる など



子どもたちに他の文化がどのようなものであるかについて、

より広い視野を持たせることが出来た



Outcome4

活動内容)

日本の学校での掃除文化を教え、子どもたちとCPYスタッフの人たちと実際に校庭などを掃除する

目的)

公共の施設を自分たちできれいに保つことの意味を伝え、これからの生活でもその考えを活かしてもらう

Outcome4

プラスα)

公共の場をきれいに保つという観点から、ごみの分別の大切さについても教える

背景)

- 日本では学校でも掃除の時間があるが、アメリカにはその文化はないため
- 公共の場をきれいにするという考え方を身に着けることで、これからの一人一人の行動が大きく変わると考えたから
- アメリカではごみ、リサイクル、生ごみの3つしか基本的に分類がなく、また分別が徹底されていないため

学んだこと

翔大: ・様々な言語を話す人が共存していて、学校内でも他の言語に触れる機会があった

・子供たちの権利が尊重されており、また、間違っただ行動をする生徒にはその場ですぐに指摘している
→子供にとって何が良くて何が悪い行動なのかがわかる

芽生: ・国境を越えて楽しめるアクティビティが多くあること

・日本古来の文化にも興味を持ってもらえること

・生徒と先生間のコミュニケーションの大切さ

ジュディー: 子どもたちに、自分の行動が大切であることを教えるのは良いことだと学びました。幼い頃からこのような意識を持つことが、システムを変えていくための良い基礎になる(SLO4)